

小樽市人口対策会議(第 1 回)意見等概要(平成 26 年 11 月 28 日)

■札幌近隣都市との比較

- ・流入流出人口を見ると、小樽から札幌に通う人より札幌から小樽に通っている人の方が多い。
- ・札幌圏の北広島や千歳は人口が増えているのに、小樽は産炭地並みに減っている。
- ・山に囲まれているため新たな住宅地の造成が難しかったという面はある。千歳方面は平らな地勢の中でベッドタウンになりやすかったのではないかと。
- ・小樽も望洋台で宅地造成をしたが、人口は減りスーパーも閉店した。これは確かに鉄道から離れているからという点もあると思う。

■雇用状況について

- ・事業所数も年 1 0 0 ずつくらい減少している。商売がうまくいかなくて廃業するのではなく、後継者がなく自主廃業するケースが多い。やはり産業の振興、雇用の確保がこれからの課題になると思う。
- ・リーマンショックにより求人は落ちたが、その後は景気の回復により増えている。拓銀破綻以降の求人が少なかったため、今 3 0 代前半くらいの人時代は採用がなく、年代の格差が広がっている。その中間層をいかに確保するかというのが事業主の課題となり、新卒者にも求人は増えてきている。以前は求人数より求職者数が多かったが、最近では求職者より求人が多いという逆転現象が起きている。

■地元雇用について

- ・新卒者が小樽に留まらず、札幌に転出しているようだ。小樽での高校新卒者の 3 0 ~ 4 0 % は地元に残るが、他は道内・道外に就職している。道外は多くないが、道内では札幌が一番多いことから、人口対策としてはいかに札幌に行くのを引き止めるかということになる。
- ・小樽では、特に女性で事務系の職種を希望する人が多いが、地元で事務系の求人は少ない。
- ・地元での雇用確保というのはとても重要だが、若い人は都会に出たい、大企業に勤めたいという希望とのアンマッチもあるのではないかと。
- ・求人で一番増えているのはパートであり、求人の 4 割にあたる。学卒者がそこに入るのは難しいが、パートで採用して業績が上がれば正規雇用へ切り替えるというケースも多い。正社員となれば生活が安定して、そこに留まることが考えられる。事業所も正社員として採用し、育てて人材確保していくということを考えていかなければならないと思う。

■小樽商科大学生の小樽居住について

- ・商大に入学した学生で自宅から通えない人は小樽に住んでもらうようにすれば人口対策になると思う。最上や緑、松ヶ枝などには空き家もある。
- ・札幌から小樽に移り住む人も中にはいるが、少ない。
- ・小樽商科大学は、札幌圏からの入学者が年々増えており、道内が 9 6 %、本州からは 4 % しかない。本州からの学生が増えれば、小樽に住む学生も増えると思う。

■対岸貿易について

- ・小樽が明治時代に発展したのは石炭とニシンと樺太のおかげであり、小樽というまちは船が入らなければ発展しないと考える。こうしたサハリンの経済に対し、何年かかけてでも実態調査などをする必要がある。例えば以前に玉ねぎが豊作で捨てた年もあったが、サハリンでは宝石のようなもので欲しがっている。小樽はサハリンなど、日本海側との交易を考えていかなければ絶対に人口は増えない。民間でそういうことを進めなければだめだと思う。

■周産期医療について

- ・協会病院が新規分娩の受付を休止するという話がある。安心して生み育てられるようにするには、まず生む場所がなければならない。

■ウイングベイ小樽について

- ・札幌と同じものを作ってもどうなのか。今は空き店舗が多く平日は人もいない。うまく雇用に繋がっていないのではないかと。